

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東北大学	整理番号	1802
プログラム名称	未来型医療創造卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中山 啓子

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、2021年4月に高等大学院機構が設置され、全学的な大学院改革が推進されており、分野横断型学位プログラムも複数実施されている。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、DTS(Data Science コース、Technology コース、Society コース)の学生がチームを組み、現場へ赴くバックキャスト研修やファシリテーション等により、学生自身が成長を実感できる仕組みを提供しており、学生からの満足度も高く、評価できる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、学内の若手教員を中心にコーチング技能研修を実施し、コーチング技術を身につけたファシリテーターを養成していることは、学生をきめ細かく指導しフィードバックを行うことだけでなく、教員自身の学び、成長にも好影響を与えていると評価できる。今後、全学的にこの体制を普及していくことが期待される。また、企業から第一線で活躍するリーダー等を特任教員として招聘し、メンターとして学生に関わる仕組みを構築していることは評価できる。セミナーやインターンシップによる協働を通し、今後発展させることが期待される。

優秀な学生の獲得については、定員15名に対し1.5倍以上の競争率は確保されているが、一方で学内外への本プログラムの周知は十分とは言えず、また教員間でも本プログラムに対する理解度に温度差があるように見受けられる。また、文系や情報系の学生が少ないことから、DTSのバランス、学生の多様な学びの観点からも、また優秀な学生を惹きつけるためにも、当該プログラムの魅力をより広くアピールすると同時に、セレクションの最適化も求められる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、学位審査に際してプログラムが目指す卓越したプロフェッショナル像に照らした適切な評価を行うことができるよう、更なる基準、体制の構築が望まれる。

事業の継続・発展については、学内外資金の獲得額が当初計画に比べて十分とは言え

ない。プログラムが自走できるよう、共同研究による資金獲得、基盤教育プログラムの共通化を図るなどに加え、引き続きの検討が望まれる。